

田向^{たむかい}2遺跡

遺跡番号 平成21年度登録
調査回数 第1次
所在地 村山市名取字田向
北緯・東経 38度30分18秒・140度22分12秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起回事業 東北中央自動車道（東根～尾花沢間）
調査面積 2,500㎡
現地調査 平成22年5月17日～8月27日
調査担当者 三浦勝美（現場責任者）・大場正善
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・村山市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 奈良時代・平安時代
遺構 竪穴状遺構、焼土遺構、井戸跡、溝跡、土坑
遺物 土師器・須恵器（文化財認定箱数：1箱）



図1 遺跡位置図（1：50,000）

田向2遺跡は、山形盆地と尾花沢盆地の境にある、河島山丘陵の南麓につながる低地部に立地する。見つかった遺構には、竪穴状遺構、焼土遺構、溝跡、井戸跡、土坑がある。竪穴状遺構は約2m四方で、外縁を浅い溝状の遺構がめぐり、全体に浅く窪む。遺構の堆積土から土師器片が、中央から木炭が見つかった。また、この遺構の南西角に、土師器片が出土している焼土遺構もあることから、竪穴状遺構は住居跡で、焼土遺構がカマド跡である可能性もある。溝跡は、長さ5m（SD5）と、21m（SD9）がみつかり、堆積土から、平安

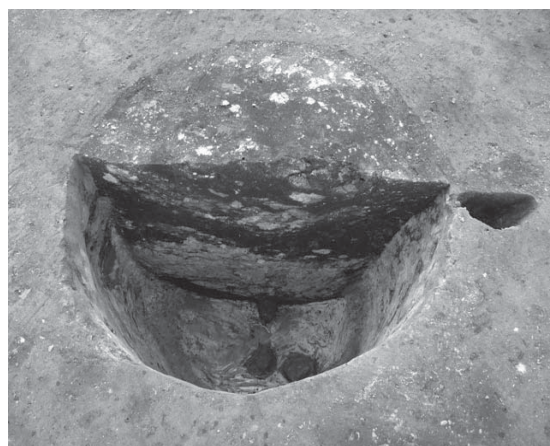


図2 SE 10 井戸跡

時代のもと考えられるロクロでつくられた土師器が見ついている。いずれも東西方向であることから、同一の溝跡の可能性もある。井戸跡は、調査区の西端（SE3）と南西（SE10）の2か所で見ついている。ともに深さが約1.5mほどで、地下水が染み出す青灰色の粘土層まで掘り下げられた素掘りの井戸である。SE10井戸跡の堆積土からは、丸底で体部に段のある非ロクロ製の土師器片が、内面に漆が付着した状態で見ついている。土坑は、遺構の形状から、地下室状の遺構や、貯水槽跡、用途不明の方形の土坑が見ついている。